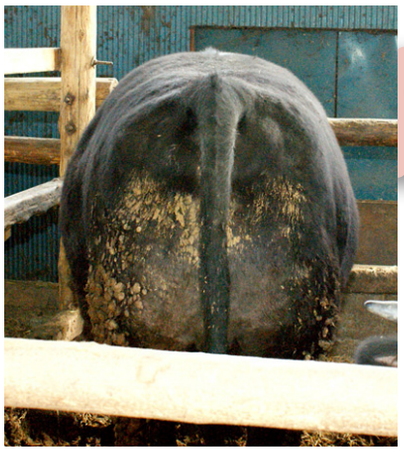
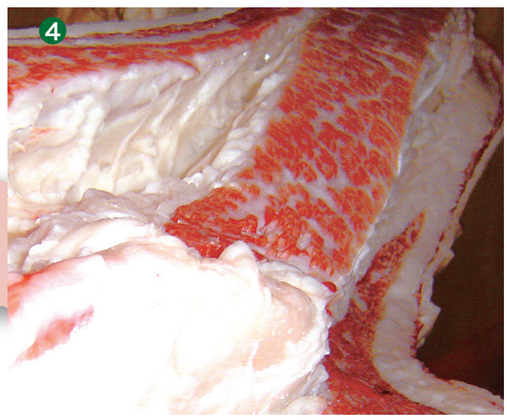


③ 導入後 19 ヵ月の肥育牛



④ 2月 19 日に販売された枝肉

導入する素牛は①のような胴伸び・資質・前幅・深み・顔品などが良いものを好む。それが 10 ヵ月経つと②のような状態になる。導入から 10 ヵ月で写真の牛くらいの幅になっていればイメージ通りとのこと。またこの時期になると、この後に伸びてくれるかどうか、新しい血統の素牛を導入したときは自分の管理に合うかどうかがわかるそうだ。さらに肥育が進み出荷が近くなると③のような状態になる。石崎牧場では肥育後期に進むと、前幅があって、背中の真ん中が窪んで見えるくらい、背中や腰のあたりが盛り上がっているこの牛のように仕上がるものが多い。こうした牛のなかから特に生体の状態が優れた牛を共励会に出品。④は2月 19 日に東京食肉市場で開催された第 45 回肉用牛枝肉共励会で優良賞を受賞した枝肉。成績は月齢 30 ヵ月、枝重 607kg、ロース芯 91 ㎠、バラ厚 9.3cm、BMSNo.12

ア　3 棟ある肥育牛舎のうちの 1 つ。牛舎の裏には竹林が広がり、静かで風通しのいいのも牛にとっていい環境ではないかとのこと

イ　導入から6ヵ月間は1マス（5m×5m）4頭で飼養される

ウ　導入から6ヵ月が経つと、牛同士の相性を見て柵で牛舎の真ん中を区切って2頭飼いにする

エ　敷き料には籾殻を使っており、牛床がフカフカになるくらいふんだんに敷き詰める。籾殻は近くのライスセンターから引き取り、床が汚れると継ぎ足していき、1ヵ月から1ヵ月半で交換。できた堆肥は近くの野菜農家などへ販売される

オ　石崎牧場の牛舎の特徴はマスの柵が固定されていないことだ。写真のようにロープで繋ぐことで牛が柵に当たってもショックが和らぐので、アタリ・外傷ができにくくなるそうだ。また②にあるようにマスの中央に鎖を張っておくことで、背中を掻いたり遊んだりできストレス解消になるとのこと